

三葉市井戸場143  
tel:fax.0256-34-5470



著者兼農家のリーダー格の存在 - 渡辺弘さん

## 「ただわらない」農業でジューシーな果実

渡辺 弘さん

初めて食べた渡辺さんの梨の美味しさが忘れられず、その秘密を知りたくて訪ねた渡辺さんの言葉は、爽やかさいっぱいの子供のような目をした若いお父さんでした。

天下の「千正屋」で、昨年渡辺さんの作った葡萄が、見た目ではなく味で日本一の値段で売られたという伝説にも満足することなく、毎年新しい試みに挑戦しています。

農業者大学校で「こだわらない」農業を学んだ渡辺さんが家業である農業を手伝い始めたのが十四年前。お父さんの代から土作りには力を入れてきました。牛糞の堆肥や用原の草をペースに、貝がらや炭、木酢液、米ぬか、モミがらなどを混ぜて発酵させた堆肥に形が決まってきたのが八年前。春秋の二回灌水エキスをまくことでいい結果が出てきたそうです。

渡辺さんの基本は、「土壌は植物」ということです。自分が育てるのではなく、植物が持っている力を損ねないようにするために、肥料は少なめ、農薬も極力使いません。でも、地力をつけるための堆肥作り、土壌改良にはエネルギーを使います。土さえしっかりしていれば、後は植物のサインを見逃さず、ストレスを与えないように、伸びたいように伸ばしてあげればいいのだといいます。欲を出して、「もっとう〇〇をしたい」と手を出してはいけません。自分が育てるのでなく、条件を整えて見守るのだという謙虚な姿勢はお父さんとも共通しています。

畑十アールあたりになった二・三本の葡萄の木が気持よく良そうにのびのび枝を伸ばしています。その下でかわいい三輪車が、持ち主の帰りを待っているのが微笑ましく映りました。二四歳と奥さん、幼稚園に通う二人のお子さんの六人家族が同じ価値観で仲良く生活している様子がほのぼのと伝わってきました。

四年前から観光地帯を始め、お客さんの反応が助みだといいます。最近では、青色葡萄のロザリオピアンゴと西洋梨のル・レタチエが好評です。畑でのフルートコンサートを企画したり、若手農家グループ「くっつら」のリーダーとしても活躍してこられました。渡辺さんの思いの枝葉を、葡萄の木のようにどんどん広げていって欲しいと願っています。

(著)

写真の中心は  
梨  
ぶどう

梨(中央)、葡萄、新米、新米、ル・レタチエ  
葡萄(右端)、ロザリオピアンゴ、ロザリオロップ